

平成 29 年 度 一 般 採 用 試 験 ( 前 期 日 程 )

国 語 試 験 問 題

( 人 文 ・ 社 会 科 学 専 攻 )

( 注 意 )

1. 試験時間中は、すべて試験係官の指示に従うこと。
2. 設問ごとに記載してある解答方法の指示に従い、マークセンス解答用紙又は記述式解答用紙に記入及びマークすること。(記述式の問題は、すべて黒枠で囲った形で示されているので注意すること。)
3. 古文及び漢文は、1つの本文の設問中にマークと記述の両方が含まれているので注意すること。

( マークセンス注意 )

1. マークセンス問題解答用紙の注意事項を確認のうえ、例にならって氏名及び受験番号を解答用紙に必ず記入及びマークすること。

例 【氏名】 防大 渚 【受験番号】 神奈川人W1234 の場合

※氏名及び受験番号の記入について

	氏	名
フリガナ	ポウダイ	ナギサ
漢 字	防大	渚

	志願地本名	専攻区分	番 号
受験番号	神奈川	人	W1234

※受験番号等のマークについて (女子受験者は、番号のWはマークしない。)

志願地本名	札幌：(01)	福島：(10)	専攻区分	番 号					
	函館：(02)	茨城：(11)		人社 ●	(0)	(0)	(0)	(0)	
	旭川：(03)	栃木：(12)			(●)	(1)	(1)	(1)	
	帯広：(04)	群馬：(13)			(2)	(●)	(2)	(2)	
	青森：(05)	埼玉：(14)			(3)	(3)	(●)	(3)	
	岩手：(06)	千葉：(15)			(4)	(4)	(4)	(●)	
	宮城：(07)	東京：(16)			性別	(5)	(5)	(5)	(5)
	秋田：(08)	神奈川：(●)			男 (1)	(6)	(6)	(6)	(6)
	山形：(09)	新潟：(18)			女 (●)	(7)	(7)	(7)	(7)
						(8)	(8)	(8)	(8)
			(9)		(9)	(9)	(9)		

2. 解答方法は、択一式であり、設問ごとの指示に従い、解答用紙の解答欄にマークすること。

例えば、**1** と表示のある問題に対して(3)と解答する場合は、次の例のように **1** の解答欄の (3) にマークすること。

例	解 答 欄					
	<b>1</b>	(1)	(2)	(●)	(4)	(5)

( 記 述 式 注 意 )

1. 各問題の設問の数に注意すること。
2. 解答はすべて別紙解答用紙の定められた欄におさまるように記入すること。  
なお、一行に相当する枠に、二行以上にわたって記入しないこと。正しく記入していない場合には採点されないので注意すること。
3. 解答中の誤字 (仮名づかいの誤りも含む。) は、その程度に応じて減点する。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承ください。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承ください。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承承願いたします。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承承願いたします。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承承願いたします。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承承願いたします。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承願います。

(港千尋氏の「痕跡の科学」による)

\* (注) 楔形文字——人類史上最古の文字の一つ。古代のメソポタミア地域で用いられてきた。

テラコッタ——釉薬等を使用せず作成される、素焼きの焼き物。

ト占——占い。

羊皮紙本——羊の皮に文字を書いた書物形式。紀元前の時代から長く用いられていた。

〈マークセンス〉

1

空欄

A

B

C

にそれぞれ入る語の組み合わせとして、

本文の論旨に照らして、最も適当なものを次の中から一つ選び、その番号を解答用紙にマークせよ。

(1) A 原型 B 博学篤志 C 伝達

(2) A 影響 B 有形無形 C 受動

(3) A 萌芽 B 森羅万象 C 間接

(4) A 顕現 B 格物致知 C 隠喩

(5) A 発生 B 万古不易 C 暗示

2

空欄

あ

い

に入る言葉として、本文の論旨に照らして、最も適

当なものを次の中から一つ選び、その番号を解答用紙にマークせよ。

(1) あ 記憶のための技術 い 一回性の現象

(2) あ 伝達のための文化 い 普遍性の再現

(3) あ 想像のための手段 い 偶然性の産物

(4) あ 鑑賞のための装飾 い 多様性の痕跡

(5) あ 記録のための道具 い 歴史性の複製

## 3

傍線部(ア)へ文字がもつ「実在性」に関する説明として、本文の論旨に照らして、最も不適当なものを次の中から一つ選び、その番号を解答用紙にマークせよ。

- (1) 文字に記述された事柄の実体を、そこに書かれた文字そのものが代替し得ると捉える、古代的な精神の活動を生み出すもの。
- (2) 書かれた文字を、それが記述した内容の直接的反映と捉え、そこに超自然的な存在の意思を推察する感性の基盤となるもの。
- (3) 文字が神々の意思の表明として存在し、読み手がそこに潜在する意味を直截的に読み取るという相互関係を成立させるもの。
- (4) 文字が、そこに書かれた現実の対象をリアルに代替すると同時に、未来への判断材料として存在することを可能にするもの。
- (5) 文字が意味する内容を、文字自体とは別次元のものとして客観的に認識し、その指示内容を推論するような感性を生むもの。

## 4

本文中の「痕跡」についての説明として、本文の論旨に照らして、最も適当なものを次の中から一つ選び、その番号を解答用紙にマークせよ。

- (1) 痕跡は自然界に普遍的に存在するものであるが、それを何かの存在の証拠として読み取り、そこに過去の様相を想像するのは人間のみであって、それを文化的なメディアとして利用し始めることによって、人類は自然を制御し、文明の発展を可能にした。
- (2) 写真というメディアは、波の痕跡の形態とその形成過程をヒントにして発明された、光が生み出す人工的な痕跡であって、過去の記憶を保存する記録メディアとしてのその本質は、古代の粘土板や、複製技術として発展した書物とも共通性を持っている。
- (3) 人間は、「型」として痕跡という現象を使用し、その所有者の権力を象徴するものとしてその力を意識してきたのであるが、そこで無数の痕跡を生む複製という新技术が発明されたことは、後に印刷物としての書物を生み出す上での革命的な出来事となった。
- (4) 石や粘土板に記された古代文化の痕跡は、当時の人類の英知を窺い知るための手掛かりになるものであり、電子空間に文字の「実在性」を発見するようになった現代の我々に、書物と読書の本質とその可能性を考える上での重要な示唆を与えるものである。
- (5) 「波の化石」は、過去の世界のかたちと失われた記憶をめぐる想像力を喚起するものであり、人工的に物質を変形させて加工することで生み出されてきたその痕跡のあり方は、痕跡を大量に複製し書物を製造する近代の印刷技術にも確かに継承されている。

本文の論旨に照らして、最も適当なものを次の中から一つ選び、その番号を解答用紙にマークせよ。

- (1) 日本社会で現在も「実印」等の形で用いられているハンコは、世界的にはもはや他の複製技術の登場によって希少化した実用的な技術であるが、それはその使用者の影響力と権力を表徴する「型」を具体化したものであって、そこには痕跡をめぐる過去の歴史性が刻印されている。
- (2) 紙面に文字を記した書物という形態は、長らく石や粘土板の時代であった古代、そして急速に文字面が電子化しつつある現代と比べれば絶対的なものではないのであり、粘土板に痕跡を読み取っていた古代人の想像力のかたちを現代の視点から再び想像することは意義深い行為だ。
- (3) 「卜占」は、祭政一致の古代社会では重要な役割を果たしていたが、科学的文明の急速な発展と、書物という複製技術の登場、普及によってそれが駆逐された結果、超自然的な存在を前提としたその迷信的な心性は、近代の科学的精神とは本質的に断絶してしまっことになった。
- (4) 筆者は、古代メソポタミアの粘土板という遺物とそこでの「読むこと」のあり方に人類の知性の根源的なかたちを見出した上で、その痕跡の膨大さと楔形文字の緻密さ、そしてその物質としての脆さこそが、非実在の対象を記録する技術としての書物の本質であると主張している。
- (5) ジャン・ボテロは、楔形文字という奇妙で複雑な文字の形態が「卜占」的な古代の精神構造を生み出したと指摘しているが、超自然的な存在への信仰と密接に結び付いたその「書物以上の何ものか」としての粘土板のあり方は、前近代的なものとして否定されるべきものではない。

〈記述式〉 現代文 (一) (七) 次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

掲載することができませぬので、ご了承ください。著作権上の問題から

掲載することができませぬので、ご了承ください。著作権上の問題から



この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承承願いたします。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承承願いたします。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承承願いたします。

(吉見俊哉氏の「デザイン、あるいは感覚の政治学」による)

\* (注) 柳田國男——民俗学者。近代以前の日本の民衆の意識や習俗を多く論じている。なお、「明治大正史 世相篇」の初出は一九三一年。

アナルル学派——現代フランスの歴史学研究における一流派、潮流。社会史的な観点を重視する。

フーコー——ミシェル・フーコー。フランスの思想家、哲学者。近代の文化や制度を生み出した歴史性について多く論じた。

アラン・コルバン——フランスの歴史学者。人間の感性の歴史に着目し、多くの論考を執筆した。

ジョルジュ・ヴィガレロ——フランスの歴史学者。様々な文化史研究の著作がある。

ジュリア・クセルゴン——フランスの歴史学者。「清潔」意識の歴史をめぐる多くの著作がある。

ヴォルフガング・シヴェルプシユ——ドイツ出身の社会学者。

パノラマ——風景の全景を見渡すことを可能にする、円環状の壁面全体に描かれた絵画。鑑賞者はその中心にいてそれを鑑賞する。一九世紀以降のヨーロッパや日本で、映画登場以前の娯楽メディアとして普及した。後に、横長の写真や映像の形式を指す用語ともなる。

アーク灯——アーク放電を利用した電灯の総称。白熱した強い光が特徴。

ブルジョアジー——中産階級。有産階級。貴族や農民と区別するための呼称である。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承承願いたします。

〈記述式〉

(一) 片仮名傍線部(1)～(5)について、それぞれ漢字二文字に直して記せ。

(1) ゲンタイ (2) ヒョウリ (3) ヒヤク

(4) インエイ (5) カンゲン

(二) 波線部(1)～(5)の漢字について、それぞれその読みを平仮名で記せ。

(1) 嗅覚 (2) 彼岸 (3) 氾濫 (4) 嗜好 (5) 嵌入

(三) 点線部(あ)～(え)について、それぞれその読みを平仮名で記せ(漢字部分の読みだけを記入すること)。

(あ) 忌みて (い) 企て (う) 溢れた (え) 淀む

(四) 二重傍線部(ア)の「ハレ」は、儀礼や祭りなどの非日常を表す言葉であるが、近代以前の日本社会におけるそのあり方を説明した言葉として、本文の論旨に照らして、最も適当なものを八字以上十字以内で本文中から抜き出せ。

(五) 空欄 I II に入る言葉として、最も適当と思われるものを

次から一つ選び、番号で記せ(空欄 I は一箇所ある)。

(1) I 排除・論理化 II 伝統的な象徴性

(2) I 解体・流動化 II 感覚的な立体性

(3) I 拡散・多様化 II 体験的な同一性

(4) I 規律・訓練化 II 場所的な空間性

(5) I 制御・一元化 II 視覚的な現実性

(六) 本文の趣旨に沿うものとして、最も適当なものを次から一つ選び、番号で記せ。

(1) アラン・コルバンは、一八世紀後半以降、嗅覚を科学的見地から分析する医学の傾向が誕生し、そこで匂いという要素が生命組織に与える影響が解明されたのだが、その傾向は、同時期に生まれた臨床医学に受け継がれたと述べている。

(2) 都市の街頭照明は、一七世紀以降絶対主義国家の統制下で普及してゆくのだが、一八世紀末以降は、ガス灯、そして「清潔」なエネルギーとしての電気を用いた電気照明が、都市の脱臭化のプロセスと連動して登場することになった。

(3) 一八世紀以降、香水は、エリート層において自らの高貴さと社会的階級を示す意味作用を付与されていたのだが、そこで自己の個性を表す記号として機能していた動物性の香水への関心は、近代的衛生観念の普及と共に失われていった。

(4) 感覚は、人間存在が生来的に備えた普遍的なものではなく、同時代社会との相互影響において変化するものだが、近代化が性急に進んだ日本では、封建社会の伝統的な聖と俗の意識が依然として強固であった、その変化は緩慢であった。

(5) 新たなテクノロジーは、伝統的な旧感覚を駆逐し、科学的・客観的認識を絶対化するものであって、鉄道旅行のまなざしの変容の実例からも窺えるように、一九世紀半ば以後の人間は、その新たな感覚に適應できなくなってしまった。

(七) 本文で論じられているヘパノラマ的にもものを見る目は、どのような経緯で生まれ、いかなる特質を持つものなのか。その成立以前の感覚のあり方と比較して、六十字以上八十字以内で説明せよ。なお、本文中の語句は用いてよいが、本文からの抜き出しのみ、あるいは本文から抜き出した語句や文章を組み合わせただけの解答は認められない。

〈記述式〉 古文 (一)～(四) 次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承ください。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承ください。

(井原西鶴の『武家義理物語』による)

\* (注) 丹後——現京都府北部。

切戸の文珠——智恩寺。天の橋立は江戸時代、この寺の管理下にあり、旧暦六月二十五日は

橋立祭として知られた。

小者——雑役に使われる奉公人。

新座者——新参者。

草履取——主人の草履を持って供をする奉公人。

鞘咎め——刀の鞘が互いに触れたことを咎めること。刀は武器であると同時に、身分の象徴

でもあった。

始め——一部始終。

乗物——引戸のある上等の駕籠。

いかやうにも御心任せ——どのようでもお心のままに。

家継ぎ——跡継ぎ。

離別——離婚。当時は男性からのみ言い渡せた。

段々——事情。

御願ひ——養子願ひ。家禄を与える権利を持つ主家の許可が必要であった。

親子の結び——養子の契約。

あはせ——結婚させ。

不憫を掛けて——かわいがって。

ヘマークセンス

6

二重傍線部「むだむだ」との意味として、最も適当なものは次のどれか。

- (1) むざむざと
- (2) むやみに
- (3) わざわざ
- (4) 無意味に
- (5) ばかばかしく

7

波線部「家継ぎにすべし」の「べし」と同じ意味の「べし」を、含む文は次のどれか。

- (1) 幸ひに式部が旧を残してその本を失はざること、仰ぐべし、悦ぶべし。
- (2) 恋ならでは、物の哀れのいたりて忍びがたきところの意味は知るべからず。
- (3) されば戒めにはならずして、かへりて好色をいざなふ書になるべし。
- (4) 源氏、栄華のことは、なほ奥にくはしくいふべし。
- (5) うるはしく雅びやかなる心詞を扱りととのふべきにこそあれ。

最初の段落における、時間の設定を示す二重波線部「月夕影」や「夜中」の効果についての説明として、最も不適当なものは次のどれか。

- (1) 八十郎が天の橋立の景色の美しさに見とれていたことを示す。
- (2) 視界が悪く伝之介と八十郎がつい刀の鞘にふれてしまったことを示す。
- (3) 伝之介・八十郎の主従による決闘の激しさや緊迫感を示す。
- (4) 小者の遺体から伝之介を討った相手が割り出せないことを示す。
- (5) 朝になって小者の正体が明らかになるまで時間がそつないことを示す。



〈記述式〉

(一) 傍線部(1)「空しくなりぬ」(2)「同心ならずば」をそれぞれ現代語訳せよ。

(二) 空欄 **A** **B** に入る漢数字一文字をそれぞれ記せ。

(三)

(ア) 傍線部(ア)のように、久八郎はなぜいとも簡単に我が子に死の覚悟を言い含め大代家へ送ったのか。次の『折たく柴の記』についての文章を参考にして、「久八郎は、大代が、(1)の観点から息子の処置を決定することに(2)だから。」の1と2に適当な字を入れよ。ただし、1は漢字二文字、2は平仮名二文字。

以下は新井白石の『折たく柴の記』に掲載された、父正済が三十一歳(寛永四年)で、上総久留里藩に仕えて間もない頃の話である。

夜盗を働いたと嫌疑をかけられ、逮捕された侍三名の身柄を父は預かることとなる。父は主君土屋利直に、彼らの刀・脇差を取り上げないでもらいたいと懇願してこれを受け取り、拘束中の三人に返して、「わぬしら、にげてゆかむとおもはば、我くびきりてゆけ。我一人、わぬしら三人敵すべきにもあらず。さらば、みづからの刀脇ざし、不用の物也」と言つて、自分の両刀を手拭いで縛つて放り出し、彼らと寝起きを共にする。十日ほどで彼らの嫌疑は晴れるのだが、結果として藩を追放される彼らは、「たった一人の警護とはなめられたものと、一旦はお主を斬ろうとも考えたが、無刀のおぬしを殺したのでは、武士の名折れとなる。幸い命が助かったら報復しようと考え直した。しかし、お主の情けにより、両刀をとり上げられ

ず、武士の身に戻れることとなった今、恨みも晴れた」と語った、という。この一件の後、父正済は抜擢されることとなった。

つまり正済は、監視すべき相手の名譽の意識に訴えて、そこに賭けることで、この難しい仕事を完遂しえたわけで、どうして監視する相手に刀を渡すのかとか、無刀の監視役正済を斬って逃げればいいではないかといった、今日的な合理的選択の価値観に留まっていたは、この武士たちの駆け引きも、正済の賭けを伴った決断も、正済による誇りの保護という情義に三人が気付いた経緯も、とうてい理解できない。

(イ) 傍線部(イ)のように、大代伝三郎は、なぜ我が子の敵を殺さず養子にしたのか。以下の説明の空欄 **1** **3** に適当な漢字二文字をそれぞれ補え。

息子八十郎をどう処置してもいいと言つて来た父久八郎の潔さ、さらに二歳差をもつともせず討ち果たした八十郎の **1** を考えれば、これを討つことは、状況こそ違え、先の『折たく柴の記』の逸話に見えるような、**2** の名譽の意識からして周囲のそしりを受ける可能性が高い。むしろ、八十郎を斬れば、二歳下に討ち果たされた我が子の士道の覚悟の無さが知れわたつて、大代の **3** を落とすことにもなりかねない、と大代伝三郎は考えた。

(四) 井原西鶴は江戸時代前期に活躍した小説作者である。西鶴と同時代に文学上活躍した人物は誰か。次の中から一つ選び、番号で記せ。

- (1) 式亭三馬 (2) 山東京伝 (3) 為永春水  
(4) 上田秋成 (5) 松尾芭蕉

へマークセンスへ

9~10

〈記述式〉 漢文 (一)~(四) 次の文章を読んで、後の設問に答えよ。ただし、設問の都合上、返り点・送り仮名を省いたところがある。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承承願いたします。

『史記』による

\* (注) 帝武丁——殷朝の王。

冢宰——宰相。

百工——百官。

管求——探し求める。

傅險——地名。今の山西省平陸県のあたりとされる。

胥靡——囚人。

築——建造物をつくる。この場合は労役に服してのそれ。

〈マークセンス〉

9

空欄 B に最も適当な語を次より選び、その番号を解答用紙にマークせよ。

- (1) 隸 (2) 相 (3) 罪 (4) 財 (5) 兵

10

本文の内容に照らして最も適当なものを次より選び、その番号を解答用紙にマークせよ。

- (1) 帝武丁は、二年間ものを言わず政治を宰相に任せっきりであったために、夢で群臣百官が自分を廃位しようとしていることを知った。
- (2) 帝武丁は、即位後しばらく様子を見ていたが、宰相が傳説の才能を妬んで追い落とし、労役に就かせていることを知った。
- (3) 帝武丁は、囚人であった傳説を家臣として取りたてたことで、殷を再建することができたが、傳説は帝武丁の夢の中で見た人物であった。
- (4) 帝武丁は、労役についていた傳説の働きぶりを見て、その実力を認め、罪を赦し家臣として厚遇したため国が治まった。
- (5) 帝武丁は、殷の再建には国風を知ることと、貴族であっても奴隸であっても身分に関係なく取りたてることが重要であると示した。

〈記述式〉

- (一) 傍線部(1)の意味を三字以上十字以内で答えよ。
- (二) 傍線部(2)「皆非也」とあるが、何が違っていたのか、二十字以内で答えよ。
- (三) 二重傍線部に正しい返り点を付けよ。
- (四) 空欄 A に入る言葉として、最も適当な漢字二字を本文中から抜き出して示せ。